

国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究事業成果発表会

日時：平成27年 1月27日（火） 場所：文部科学省（東京・虎ノ門）

参加者 英語科山田教諭

国際バカロレアとは？

国際バカロレア機構が提供している教育プログラムで、世界140以上の国、地域の約4,000校で導入されている。**高校レベルのディプロマプログラム(DP)では、国際的に通用する大学入学資格(IB資格)が取得可能。**

「1 言語と文学(母国語)」「2 言語習得(外国語)」「3 個人と社会」「4 理科」「5 数学」「6 芸術」の6グループから1科目ずつ選択し、計2年間で履修。さらに、コアとなる以下の3つの必修要件を履修。

①**課題論文(Extended Essay, EE)**：日本語の場合8,000字の論文、英語の場合は4,000語で論文を書く。

②**知の理論(Theory of Knowledge, TOK)**：「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する内容で、最低100時間の学習。

③**創造性・活動・奉仕(Creativity/Action/Service, CAS)**：創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。最低150時間の活動。

上記のプログラムを終了後、IB取得の試験に45点満点中24点で合格。最近では、点数に関係なくプログラムを終了していれば合格できる大学もあるらしい。

DPの授業・試験は原則として、英語、フランス語、スペイン語で行う必要があるが、一部科目を日本語で行う日本語DPもある(制限あり)。

会議の主旨

文部科学省では、国際バカロレアの理念を生かしたカリキュラムづくりを行う学校を指定し、その趣旨を踏まえたカリキュラムや指導法、評価法などに関する調査研究を実施。モデルカリキュラム構築に向けて3年間の成果と今後どう活用できるかを検証する会で、全国から400人近くの教員が参加。

研究発表校

■ 愛知県立旭丘高等学校

[調査課題]

- ・TOK(知の理論)を踏まえた授業実践を通じ、主に批判的思考力の向上を目指したカリキュラムの研究開発。
- ・公立高校が、IB認定校を目指す際の課題を整理。

[実施教科]

- ・現代文、総合、倫理、数学Ⅱで実施。

[まとめ]

- ・**批判的思考力を育成するためには、授業時間の確保、教科間の連携が重要。また、指導者の力量により授業展開と生徒の動きが変わるので、教員研修が必要。**
- ・公立高校が認定校になるための課題は、ヒト(研修・異動の問題など)・カネ(年間約1万ドル、ワークショップ参加費用約700ドル)・モノ(より多くの教室確保、ICT機器や実験施設など)。

■ 京都市立堀川高等学校

[調査研究]

- ・学習指導要領の中でIBの理念を活かす。
- ・堀川高校の探究活動や体験活動を取り入れ、一条校(全日制普通高校のこと)におけるモデルの確立。

[実施教科]

- ・もともと探究活動を実施しており、そこにバカロレアのコアとなるEE(課題論文)・TOK(知の理論)・CAS(創造的活動・奉仕)を充てる。

[まとめ]

- ・ポートフォリオ（作品集）を用い、3年間の体験活動を通じた生徒の成長を可視化できた。**TOK(知の理論)を用いる授業を展開するためには、教員の研修が必要**であり、教員が TOK などの授業受けて理解していなければ、取り入れても意味がない。

■ 札幌聖心女子学院 中学校・高等学校

[調査研究]

- ・IBの主旨を踏まえた教育と自校の教育関連性やIB教育の活用と発展についての研究など

[実施教科]

- ・英語表現とライティングでネイティブの授業
- ・倫理、環境科学で TOK を実施
- ・もともとある卒業研究授業（総合学習6年間）を EE に振り替えて実施。

[まとめ]

- ・「教えること」から「学び合うこと」への**転換の重要性**を理解する。
- ・学習内容や方法を明確化する必要があるため、生徒が自分の目標と取組を把握できる。
- ・**答えの出ない問題を皆で考えながら結論を導く活動は、いろいろな授業でも展開できる。**
- ・教師の研修や多様な生徒に対応したカリキュラムの実施には時間と費用が必要となる。

■ 関西学院千里国際高等部

[調査研究]

- ・千里国際高等部と大阪インターナショナルスクールの2つの学校が1つのキャンパスにあるイメージ。
- ・3年間の高校生活でIB取得もできる学校を目指している。20年前からIB授業の歴史をインド人の先生が日本語で実施。

[実施教科]

- ・ほぼ全ての教科で対応できている。2つの学校のカリキュラムを取り入れることで、個人対応もできる。

[まとめ]

- ・かなり特別な学校である。

■ 名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校

[研究課題]

- ・「分かる学力」「概念的理解・思考」「非定形型問題解決力」を高めるための評価法の研究。

[実施教科]

- ・中高6年間の総合学習、協同探究学習法を全ての教科で活用できないか。

[まとめ]

- ・中高一貫、SSH、協同探究学習など独自の教育実践を展開している。バカロレアカリキュラムとの共通点は、全人的、個性化、コミュニケーション能力重視、職業体験重視である。
- ・IBの問題点として、「個別対応できない」「1年を通して授業時間の確保が困難」「書かせる指導が教育課程には明示されていない」などがあり、今後課題となると考えられる。

研究発表会に参加して

政府の目標はIB認定校を2018年までに200校としている。日本語DPによる認定課程を一部の認定校で平成27年4月から開始する。英語の外部試験に関しても、このDP取得に関しても、経済界からの提言である。**まずは指導できる教員の養成が求められている**（現在は昨年4月から養成コースを設置している玉川大学の1校のみである。）。上記の発表校の中には、アメリカまで研修に行かせている私学もあった。バカロレアの考え方、学習法は、日本の教育に一石を投じるものであるとともに、**SGHが目指す全人的発達、コミュニケーション能力重視、人間関係の中での協調学習など共通部分が多く参考となるが、現実的に取り入れていくにはかなりの時間と費用を要すると思われる。**